

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



初代の心にかえり信仰の喜びを
深めよう 伝えよう 広げよう
一、持ち場立場で日々理作り
一、家族揃って教会参拝
一、一日一件にをいがけ

立教172年
11月号

秋季大祭講話

受け、始まる
あなたからの世界だすけ

大教会長様

本日は、大祭ということ、大祭の意義、また、創立百二十周年記念祭に向けての今の時句に合わせて、思うところをお取り次ぎします。

◎立教の元一日

三日三夜の押し問答の末、仰せのままに順う旨を対えた夫・善兵衛様

我は元の神・実の神である。この屋敷にいんねんあり。このたび、世界一れつをたすけるために天降った。みきを神のやしろに貰い受けたい。

この一言によってお道が始まったとお聞かせいただきますが、厳密に言えば、この一言をきっかけとして道は始まったのです。

教祖伝をよくみると、このお言葉があったのは、天保九年十月二十三日、夜四ツ刻(午後十時)です。

た。

つとめての祈祷最中に、前述のお言葉がありました。「お言葉があつてこの道が始まった」のなら、立教の元一日が十月二十三日ということになりませんが、そこから親神様と中山家との押し問答が始まりました。

当時、みき様は家事一切を任せられ、まだ小さい子どもさんがおられて、子育ての真最中でした。家事一切と言っても普通の家ではなく、使用人もたくさん抱えているような屋敷ですから、使用人一人ひとりへの気遣いや畑仕事など、中山家の中心で働かれる一番重要な役割を担っていました。

そういう訳ですから、さあ「みきを神のやしろに貰い受けたい」と言われても、そう簡単にはどうぞとは申せません。

「他様の方へお越し願います」というようなことも言われる中で押し問答が繰り返され、再三再四お断り申されましたが、中々お下がりにならない

この時、中山家の夫・善兵衛様、みき様、長男・秀司様、それぞれの身上お手入れから寄加持をしている最中でした。

本来いつも加持台になるそよさんが不在で、急遽、中山みき様がその加持台を

い。「不承知とあらば、この家、粉も無いようにする」という厳しいお言葉や「二十年三十年経ったなれば、皆の者成程と思う日が来る程に」という言葉も交えながら、三日三晩、押し問答が続きました。

その間、みき様は加持台として御幣を持ったまま、時には手は激しく揺れ動き、御幣の垂紙は散々に破れるというような状況の中、不眠不休で飲まず食わずの三日間でした。

見た目もやつれてき、このままでは一命の程も気遣われる様子になったので、この上はお受けするしかならうと思ひ定め、十月二十六日朝八時頃、夫・善兵衛様が「みきを差上げます」と申し上げた。

実は、その時が立教の元一日になります。教典に、

遂に、あらゆる人間思案を断ち、一家の都合を捨てて、仰せのままに順う旨を対えた。

時に、天保九年十月二十六日、天理教は、ここに始まる。

と書いてありますように、お言葉があつて道が始まったのではなく、夫・善兵衛様が「みきを差上げます」と対えられて、その時に天理教が始まると明記されています。

つまり、天理教が始まったのは、お言葉があったからではなく、そのお言葉を受けたところから

実はお道が始まり、同時に親神様の世界だすけが始まっているということです。

◎人間創造のとき

親神様の思召を計りかねるも承知をされた道具・雛形

この「受けて始まった」ということについては、天保九年だけではなく、人間創造のときにあっても同じことです。

この世の元初りは泥の海、月日両神いたばかりで何と味気ない、何とか人間というものを創ってその陽気ぐらしをするのを見て共に楽しもうと思いつかれて人間創造にかかられたとのことですが、それにあたって道具を寄せておられます。

うをとみとを引き寄せ、しやち・かめ・うなぎ・かれい・くろぐつな・ぶぐといろんな道具を引き寄せられました。

その一つひとつに対して、道具・雛形として使いたいと相談され承知をさせて貰い受けた、と元の理の話の中に書いてあります。

これにつきましては、教典には、人間創造にあたって寄せられた道具一つひとつが断られたとは書いてありませんが、二代真柱様の『ひとことはなし』には、寄せられた道具が「私には役が重

たい様に思いますのでお断りさせて貰います」と書いてあります。

ですから、そこでも断られたいきさつがありますが、最終的には承知をさせて貰い受けられ、それで初めて道具としてお使いになられた、ということなのです。

◎御身お隠しのとき

真意を解しかね、扉を開いてろくぢにならしたと申上げた先人先生方

また、明治二十年に教祖が御身をお隠しになられたときには、教祖の御身を案じた真柱様始めおそばの先生方が本席様を通して親神様と押し問答をされました。

その中で「扉を開いて地を均らそうか、扉を閉まりて地を均らそうか」との問いかけに対し、当時の先生方は「扉を開いてろくぢにならし下されたい」とご返事を出されました。

結果としてそれが教祖御身お隠しに繋がったのですが、これも、親神様の方から声を掛けられ、私たちの方が——どうぞこうしてくださいと承知をした——受け、初めてすべてのことが始まっているということなのです。

◎私たちの信仰の元一日

ならぬ中を「はい」と受けた初代たち

合わせて今のこの句を思案すると、「初代の心にかえり」と明記して歩んでいます。私たちの信仰の初代も、「承知をさせられて月日のやしろとなられた教祖」と同じようなことでした。

私たちの信仰の元一日、初代の人たちも身上・事情があったと限りませんが、話を聞き分けられ、いろいろと話を聞く中に「あんたも信仰せんか」と言われて、「はい分かりました、はい信仰させてもらいます」というような状況の中で信仰が始まりました。

言われたからではなくて、最終的には私たちの方からお道を通らせていただきますと承知をしたからこそ今日の道があるのです。

この、すべて、受けたところから始まっているという、このことを、お互いにこの句に思案しな



ければなりません。

皆様方の初代も同じだと思えます。身上にかかって無い命を助けてもらった。その当時の先輩先生方が助けてやりたいから、「おちばがえりせんか、おつくしせんか、日参せんか、ひのきしんせんか」といろいろと言われ、そんな中、初代が、聞きにくい中を「はい」と承知をしたなればこそ、大きな御守護もいただける今日の姿がある訳です。

初代もそんな中を通ってきた。それも、都合の悪いときは聞かずに都合のいいときだけ聞いてきたのか、と改めて考えてみると、むしろ都合は悪かったです。

その都合の中、承知をした。命がないと言われているときに「はい」と承知をした。その中で都合を捨てて親の声を「はい」と受けて通って行く中に、不思議な御守護をお見せいただいて、今日の皆様の姿がある、ということではないでしょうか。

代が重なってくるとその素直さ、「はい」と受けることを忘れてしまって、つい自分の都合が先に立ってしまう。「今は都合が悪いから後でさせてもらいます」とついつい自分の都合が先に立ってはいませんか。

「初代の心にかえり」ということを真剣に通るなら、自分の都合を一切捨てて「よし分かりまし

た、やらせてもらいます」と先ず受けることが大事ではないのか、今、まさしくそこに立ち返る句ではないのか、改めてこの句に思案したい。

改めてそこからもう一度歩み出す必要があると思うし、またそういう道に今、向かって歩いている句だということを、しっかり心におきたい。

◎今時句は

世界一れつをたすけるために引き寄せられたお互いであるということを自覚しよう

そして、それに合わせて、「はい」と受けることの意味を、そこからもう一つ深めて思案したいと思えます。

「世界一れつをたすけるために、みきを貰い受けたい」と言われた。

「世界一れつをたすけるために天降った。みきを神のやしろに貰い受けたい」、つまり、中山みき様をたすけるために、中山家をたすけるためではなく、世界一れつをたすけるためにもらい受けたいと仰った。

このことも合わせて思案したいのですが、私たちお互いの初代は、我が身たすかりたい、そういう思いから「はい」と承知をされたのでしょうか。しかしながら単にその人だけだったのでしょ

か。もしそうならまさしく今、ここにお道がこの姿になってないはずです。

教祖お一人をたすけるため、中山家をたすけるためではなくて、世界一れつをたすけるために月のやしろとされた。

それと同じく、私たち一人ひとりのよふぼくは、まさしく同じ目的で引き寄せられたお互いではないのか。つまり、私たちの初代もそう、そして、私たちもそうですが、今、引き寄せられているお互い一人ひとり、私たちがたすけるためではなく、それと同時に世界をたすけたいから引き寄せられたお互いだと言えるのではないのでしょうか。

その点をしっかりと思案しなければならぬのではないか——受けるといことはそういうことです。

決して我が身・我が家だけのたすかりではないのです。その「受ける」ということが大きく世界にたすけに繋がっていくのだということ、それ程、大きな意味があるということ、ただ一つ「承知をしました」という一言が、それ程の大きな意味があるということ、です。

代々後に続けて信仰をしてきたのは、その思いがそこにあったからこそではありませんか。

我が身・我が家だけのたすかりではなく、我が身・我が家のたすかりを通して、世界一れつがたすかってゆく、そのための信仰なのだ。だから

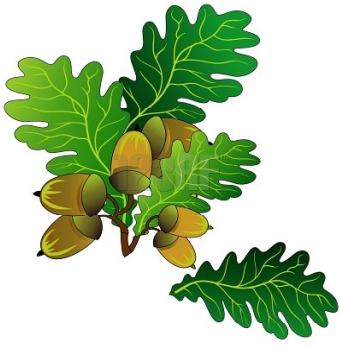
非とも伝えていかなければならない。そういう思いがあったからこそ今日の姿があるということではないでしょうか。

代が重なってくるとそういう初代の心がなくなってしまう、つい我が身のたすかりになっではないでしょうか。

「はい」と言うことを聞くということが自分たすかる、我が家がたすかるということにとどまっではないでしょうか。

そういう思いがあるから、今では、「都合が悪い」という言葉も出てくるのではなからうか。我が身・我が家のたすかりを求めているから、親から一言言われたときに「いや、ちょっと都合が悪い」という言葉になっているのではないのか。それはまさしく、我が身のたすかりにしかしてないということですよ。

しかし、祭文にも述べましたが、立教の元一日の親神様の心、親の思いは「世界一れつをたすけたい」のです。――教祖、そして初代を初め、今



信仰している皆さん、私たちを通して、世界一れつをたすけたい――それがまさしく親神様の申し召しなのです。

◎初代……今時句……次代へ

一人のたすかりから世界のたすかりへ

あなたから始まる道

言い換えれば、私一人がたすかることによって、私を通してどれだけの人がたすかるか分からないということですよ。

はい承知しましたと一生懸命受け取る。そして、にをいがけする、おちばがえりする、教会に日参する、人がポツポツ出てくる……。「はい」と受けたその人からまた、大きなたすかりが伸びてゆくのです。

代が重なって、我が身のたすかりになっていません。さらに我が身のたすかりすらも止めてしまったら、せっかく引き寄せられた親の思いに報いることができません。

神様は、難しいおたすけをせよと仰っているのではないのです。

「さあ旬々の声、ただ、はいと受けてくれさえすれば、後はいかようにもたすけてやるう」という親神様の申し召しですよ！

つまり、「はい」と受け、るまでが私たちのつとめであって、「はい」と受けてしてくれば、後は、親神様が、自由な働きをしてくださる、ない命をたすけてくださる、その人を通して、また新たなおたすけに繋がってくるというのも、すべて親神様・教祖が働いて御守護してくださるのです。

何も難しいことをする必要はありません。そのきっかけであるところの旬々の親の声を「はい分かりました。承知をしました。つとめます。」と、ただ受け取る、それだけです。

今、そのただ受け取る、そのことが我が身のたすかりだと思案してしまっただけを流してしまっただけのお互いだとするならば、その点もしっかりと改めて――我が身のたすかりではなく、私のたすかりがより多くの人のたすかり、そして、私のこの「はい」と受け、たこの一言が、まさしく世界だすかりに繋がって行くんだ、という思いをもって――それぞれ、今与えられた一つひとつの立場、今与えられた身体の自由用をしっかりと使わせていただいで、「はい」と受けて御用につとめきらないければならない、今はそういう旬ではなからうかと思ひます。

代が重なってくると、我が身のたすかりになっってしまう、つい、子どもにも信仰を伝えていかな

子どもが信仰しなくても、もう子どもの好きだから、子どもの自由だから信仰しなくていいと言ってしまう。でも、子どもを通して、どれだけの人が、またたすかってくるのかと考えたら、子どもの自由だなんて言っていられない、それだけたすけが遅れるんですよ！

教祖お一人から始まったこの道、そして、初代一人から始まったこの笠岡の道、すべて、親神様の「世界一れつをたすけたい」というその心をともに受けて、匂々の親の声にしたがってきた姿です。

改めて、我が身のたすかりだけではなく世界一れつをたすけるために、一人ひとり、しっかりと信仰を伝えてゆく、広めてゆく大切さを心に置いていただきたい。

一人をたすけそこなったら、その先の、その人を通してたすかるべき人がたすからないのです。決してその一人だけのたすけではないのです。

どうか、皆様方には、申しましたこと一つひとつを、しっかり心に留めおかれまして、「世界一れつたすけたい」という親の思いに、今、できる精一杯の努力でもって応えさせていたいただきたいと思えますので、どうぞよろしくお願い申しあげます。

共々に勇んでつとめさせていただきます。

《以上要約》

教養掛研修会 開催

・ 9月25日(金)午後7時〜 於…詰所
 ・ 10月20日(火)午後4時〜 於…大教会

大教会長様より「教養掛としての心構えと期待」についてお話し下さり、続いて「修養科教養掛勤務規則」の確認及びねりあいを行った。

今までややもすれば、教養主任独自の判断に於いて、修養科生の丹精につとめておりましたが、部内教会長をはじめ修了者の方々から、各種のご意見を頂戴していただきました。こうした上から新しく任命された人もありましたので、この機会に従来から備えてありました「修養科教養掛勤務規則」を基に研修会を行い、大教会長様の思召しをしっかりと心に刻んで、同一歩調をとることにしました。大変貴重な時間を過ごすことが出来ました。但し一回だけの予定でしたが時間を区切ったこともあって2回に亘りました。

皆、真剣にねりあうことが出来、良かったと思えます。今回もそうでしたが、今後も各方面からのご意見や要望を受け賜り乍ら、ねりあいを重ねて「よふぼくの中よふぼくの丹精」の上に努力させて頂きたいと存じます。

(教養掛主任 谷内伸自)

おかえり講話 開催

親神様のご守護の有りがたさと
 教友の明るい笑顔に心弾む

10月25日午後7時より笠岡詰所北棟3階講堂にて「秋季大祭お帰り講話」が行われました。大教会長様のご挨拶の後、講師の松尾真理子先生(加古大教会長夫人)は秋季大祭に帰られた会場一杯の教友に親神様の思召しについて切々と御講話いただき、締めくくりに「皆様はおちばに帰られ親神様・教祖にお喜び頂きひのきしんに伏せ込みをされて一杯のおちばの理をいただいておりますから国々所々に帰って多くの皆さんにこの喜びの理をお伝え下さい」と述べられました。



十月三十一日から十一月一日にかけて、女子青年で別席団参をさせて頂きました。この日に向けて、毎月の例会では、大教会周辺にをいかけに出させて頂いたり、婦人会本部でお作り下さったハガキ(支部長様が女子青年のために購入してくださった)に一枚一枚裏表手書きで、笠岡に繋がる三百名近い女子青年さんたちに送らせて頂いたり、それぞれが色々な周りの方に声掛けをしたり、と、委員一丸となって取り組んで参りました。その甲斐あって、二名の初席者をお与え頂く事ができました。賑やかで、楽しくて、素晴らしいおちばがえりになりました。この場をお借りして、ご協力頂きました担当の奥様方、お声がけして下さった委員長の方、お声がけして下さった委員部長の奥様方に、まずお礼を申し上げます。ありがとうございます。本当にありがとうございます。

初日のお昼に大教会を出発し、浅野明教先生のプロ級の運転のお陰で、予定通り夕方五時ピッタリに本部に到着することができました。(ありが

婦人会笠岡支部 女子青年部

節や悩みを乗り越え

初席者をご守護いただいて おちばがえり

別席団参

とうございました！みなで神殿、教祖殿、祖霊殿を参拝させて頂き、詰所に到着しました。温かいお出迎えを頂いて、お腹いっぱい夕ご飯を頂いて、そのあとの懇親会では、おちば管内からの参加者も迎え、我を忘れて大はしゃぎしました。中でもウインクキラというゲームをしたのですが、ウインクと瞬きの見分けがつかない人がいて、全くゲームが進まないという事件が起こったり、普段は見えないセクシーな表情が見えたりして、担当者の奥様を筆頭に(?)楽しませて頂きました。

そして、支部長様から別席についてお話を頂戴しました。初めて神様のお話を聞いて下さる方には、とても分かり易くて心が温かくなるようなお話を下さり、参加してくれた方がとても感動してくれました。そして、よふぼくである私たちには、理の親になって別席を運んで頂いている間の心遣いを、妊娠中の十月十日の心の遣い方に喩えてお話下さいました。心に染み渡り、ぜひ色々な方にも聞いていただきたいなあとい

う思いになりました。

その後、時間がない中車を飛ばして来て下さった、三名の参加者が合流し、夜は心行くまで語り合い、カップラーメンを平らげ(笑)早い朝づとめに備えぐつりと眠りました。

次の日、天気予報は雨でした。ところが、初席も無事に運んで頂き、基礎講座もしっかり受けて頂き、詰所に帰って一息ついた所で雨は降り出しました。子供達の姿を見て、親神様が踏ん張って下さったのかと思うと、嬉しくてたまらない気持ちになりました。

午後は練り合い、アンケートの記入、片付けひのきしんをして、詰所を後にしました。参加して下さった皆さんそれぞれが、節の最中だったり、思いを抱えたりして、その中を参加して下さって、一つでも喜びを見つかることができた団参になったのではないかなと思います。私自身も、心の中に素晴らしいお土産を頂くことができました。

もし、女子青年さんがここを目に留めてくれたら、ちょっと読んで下さい！私は笠岡にお嫁に来るまで、女子青年活動を敬遠していました。何かかしまって、おしとやかで、絵に描いたように素直な女の子だけがする活動と置いて(そういうタイプではなかった)、もう一生縁がないものだと思っていたんですが、大教会の奥

様に声を掛けて頂いて、参加するようになりまして。初めはよく分からないのもあって、ただ行かせて貰ったのが、いつの間にかそこが自分の居場所になって、癒しになっています。グレテた(進行形でも)とか、おもしろくなさそう、とか、なんとなく嫌、とか、色んな思いがあると思います。が、とにかく一度、遊びに来て下さい！ 委員部長の奥様方にも、女子青年活動に、娘さんや、周りの方をどんどん出して頂きたいと思えます。喜んで貰える様、これからも委員長を中心に、素直に、可憐に、笑顔で頑張りたいと思えます。

(女子青年副委員長 上原 宏恵)

談話室



バス団参

芦品分教会 竹内 理江

9月にバス団参のお話を聞いた時、職場の親戚のおばと話し、”私は仕事をやるから、おばちゃんに参拝させてもらったら”と、参拝する気は”0”でした。ただ、主人と子ども達には日帰り参拝

して来たらとおぢばに帰るよう勧めていました。

日にちは過ぎ、10月芦品大祭前日のひのきしんでの事。おつとめ練習終了後、みんなでコーヒーを飲みながら、大祭参拝について話し合いがありました。バスを出すか出さないか、日にちはいつか…。みんなで押し問答した結果、日にちは25・26日でバスを出す事に決まり、私は”行かないから”と頭で思いながらも、仕事を休めたら、主人と子ども達と一緒に団参できるなあ、けど職場のおばや、いとこと話をしない事には参加するしないの返事はできないなあ”と、その日は考えておきますと言って家に帰りました。

次の日、芦品の大祭での神殿講話。高屋の会長様のお話を聞き(内容はすぐ忘れるけど、心が勇むとくっても良いお話でした)親の想いに添う事が大事なんだと、なんとしてもおぢばに帰らせて頂きたいと、気持ちがコロコロと変わりました。いくら心で思っているつもりでも行動に移さないといけないんだと。広島親戚、職場親戚と話した結果、陽気本店、福山店、大手町店を臨時休業にして、みんなで参拝させて頂く事に決まりました。

さて、バスで天理まで行くとなると、子ども達は大喜び!! おやつを用意して、いざ天理へ!! 主人、子ども4人と楽しいバスの旅。本部でのおつとめ、回廊ひのきしん…。この後月曜は仕事の主人は、親戚の車で福山へ帰り、私と子ども達は

詰所へ…。用意されたご飯に布団、主婦としては極楽な時間が過ぎていきました。夜には、一度お話を聞いてみたかった松尾真理子先生のお話。ジョークまじりの理のあるお話は、心にスーッと入ってきました。色んな事がある毎日。人の言葉にカチンときたり、イライラしたり…。けど、一日の終わりに喜びに変えられるよう。これなら私にもできるなあ”と、忘れなかったら”実行していきましょう。で、大祭当日は朝から雨。私達は、西礼拝場の下で参拝して、お話終了後、本通りで買物を済ませ、バスに乗りこみ帰福。

バスの中では、安那の会長さんが「大祭に雨は珍しい、けどインフルエンザが流行している今、雨でよかった。雨のお陰で湿度が高く、気温も高くなかった。晴れて気温が高かったら、空気が乾燥していて菌がまん延していたかもしれない。これも親神様の御守護だなあ」と言う話をして下さいました。なるほど、雨の御守護！ 神様ですごい!! 働らいて下さっているんだなあと思えました。

以下、余談ですが、私はお気に入りの靴をはいておぢばに帰らせて頂きました。実は、両方の靴底には穴が空いてまして、雨のお陰で、靴も靴下もびちょびちょ。雨だけは降らないでほしい”と願っていましたが、雨は神様の御守護。これで新しい靴を買う決心がつかしました。tkm

全教野球大会に参加して

府中市分教会 豊田 宏哉

今回天理で行われた野球大会に、28日、29日と参加してみて、とても有意義な時を過ごせた。何故かと言うと、自分は天理教の教えを学びだしたのが、昨年の12月の修養科からで、まだ一年にもなっていない。日々学んで行かなければならないが、一番大変で大切であろうと、自分の考えているのは、他人との「つながり」である。今まで子供の頃からおぢばへ帰ってたわけでもなく、知人も居ない。その中で少しずつ知り合いを増やし、「話し合える」「語り合える」人を作っていく中、

どうしても自教会の枠外の知人の少なさ。そんな時、青年会の委員長である上原さんに誘って頂き、「チャンス」と思ってお願ひした。フタをあけてみれば、平日なので仕事等がある方がこれぞ、人数は12人程、いわゆるギリギリであって、監督の采配とみんなの頑張りで、一回戦突破!!が、二回戦は交代する者が居らず、ボロボロの体を引く張るように皆頑張ったが負けてしまった。たしかに負けてはしまったけど、笠岡チームの問題点等、次回への目標は出来たと思う。そんな中、この大会のお陰で自分には話しが出来る人が、多少なりとは増えた事が大きな収穫であったと言える。他

教会の会長さんや信者さんとの会話、これはこういう時でもないかと、そうそう出来ない。野球大会に限らず、人と語り合える場には、これからも積極的に出て行こうと思える程の収穫のある二日だった。こういう想いを持っている若い人にはぜひスポーツに限らず、各行事に出れば、辛い事もあるかもしれないが、それに見合った得るものもあるということを知ってほしいと思う。自分も今回はさすがに疲れたが、それ以上に楽しく色々な話しが出来た二日間だった。皆さん有り難う御座いました。また道の上で会いましょう。



「川柳？」

芦品分教会 金谷 眞佐代

「川柳？」

初競馬 みんなはづれる

でも楽し

1日に布教所の月次祭を終え、直会も終わり弟や、めいやおい達が馬券を買いに行く私も^{1,000}投資してみた。初めてのこと。胸をワクワウさせながら、帰りを待った。「みくんなはづれたヨ!!!」

「道柳」？「俳壇」

①今年には二度もできたよ

バス団参

3月25、26日と父88才の米寿のお祝に大型バス一台貸し切って、淡路島の洲本温泉でお祝をして、お礼のおぢばがえりをさせて頂いた。

子供夫婦、孫夫婦、ひ孫、また父のお祝をして下さるお道の方々、総勢何名だったかな？秋季大祭(別席、ひのきしん団参)にも出させて頂いた。

②日々に嬉し涙の朝づとめ

86才になる母は、朝のおつとめの時、毎日、嬉しくて、もったいなくて…と涙を流しながら、おつとめをしています。

地域の知恵袋

皆さん、犬の落とし物に困っていませんか？ 私も実に困っていたのです。教会の玄関前、挟む東西の道路へ煩瑣な落とし物……。しかし最近はずつ解決していくようです。私の悪戦苦闘が「地域のお知恵拝借」になって役立てばいいですね。

最初は誰でもするように「ここので・をしないで下さい」「・・の始末をして下さい」の貼り紙をしました。これが全く役に立たないんだなあ。段々腹が立って世間の言うプツン切れた。最後通牒にこう書いた。「飼い犬の・・はあなたの・・です」まあ飼い主が外で・・をするみたいなものだ。これは効果が有った。しばらくの間はだ。刺激的な言葉は日が経てば刺激にならなくなるのか。雨風にさらされて貼り紙も字が薄れ、汚れ、千切れ……。強い言葉は教会に似合わないな。それで一寸思いを変えた。貼り紙を外し例え落とし物が有っても何も苦情を披瀝せず黙々と清掃始末する。朝、玄関、

道周りを掃除する。夏なら水を打つ。丁度犬を散歩させている人が通りかかる。この飼い主が始末をしないやからか？ という思いを捨てて「おはようございます」と声を掛ける。知らない人だがこちらが声を掛ければリアクションが必ず有る。その内に本当に段々落とし物が減ってきた。場所を換えたのかも知れないが当方はきれいになった。やっぱり人間だもの、きれいにしている所や挨拶を交わしたような所は遠慮するもんだよ。これからも「北風と太陽」の寓話のように旅人の上着を脱がすのは、犬の落とし物をなくすのは、北風に似た強い注意ではなく太陽のような暖かい言葉、態度なんだな。皆さんへの「お知恵」というのは一寸おこがましいことですが私の一つの成功例なんです。



◆詰所掛より

◇大祭、月次祭の日、下記の時間で事務所を閉所させていただきます。

月次祭	9:00~10:30
春季大祭	11:00~12:30
秋季大祭	8:00~ 9:30
教祖ご誕生祭	10:00~11:30

◇食事申込みについて

喫食の2日前の夜迄に申込み。本部食も同様です。

◇大祭月及び、ご誕生祭の宿泊の申込みは輸送部へ。

食事は詰所へお申込み下さい。宿泊・喫食の2日前の夜迄。

◇年末、お正月3が日に参拝されます方は

12月10日迄に人数、食事をお申込み下さい。お正月は特別食になりますので、申込みのない場合喫食出来ません。炊事本部がお正月はお休みです。

秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には「人間が陽気ぐらしをするのを見て楽しみたい」との思召から道具を引き寄せ守護を教えて人間とこの世をお創造つくり下されたばかりでなく陽気ぐらしができるようにと 絶え間ない御守護によってお育て下さいます事は 誠に有難く勿体ない極みでございます 加えて旬刻限の到来と共に 教祖をやしろとしてこの世の表にお現れになり 人間の進むべき道筋をお示し下さり 又お通り下されて今なおお導き下さっております事は 御礼の申し上げます ようもございません 親々を通してお引き寄せ頂きました私共はその御恩に少しでも報いさせて頂きたいものと 日々は朝夕に御礼申し上げると共に「世界一列救いたい」との思召に心えさせて頂くべく 届かぬながらもたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中でもこの月二十六日は教祖が月日の社となられ 世界救いの始まった尊い日柄に当たり おちばでは秋の大祭が執り行われますので 当教会に於きましても理のお許しを戴いて 只今からおつとめ奉仕人一同 立教の元一日の親心に思いを馳せ 明るく陽気に勇んで坐りつとめてをどりをつとめて 秋の大祭を執り行わせて頂きます 御前には遠近を問わず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝み 尚も変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまいして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

又おちばの秋の大祭に合わせ 別席ひのきしん団参をさせて頂きます 創立百二十周年記念祭に向けての成人の歩み 一年目の様子を御覧頂こうと募集の上之余念はございません 何卒一人でも多くの人をお引き寄せ下さいますようお願い申し上げます

更には又 今月直轄教会の大祭参拝をさせて頂き 年頭の心定め完遂を誓い合わせて頂きました 完遂目指し力の限り勤め切る所存でございます

何卒 親神様には旬々にお聞かせ頂く親の声を素直に受け止め たすけ一条に邁進する皆の誠実の心をお受け取り下さいます 万たすけの上に自由の御守護を賜り次々と親心に触れ 御恩報じを願う人が弥増して 一日も早く陽気ぐらしの世の中に立て替わりますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

こころの詩

こころのうた(想ひ出)

思ひ出って楽しいものですネ
悲しかったこと、苦しかったこと

まして楽しかったこと
嬉しかったこと

みんな神様が浄化して下さるのかしら
想ひ出って楽しいものですネ

芦辺分教会会長 松岡睦代

▼表紙の絵

福満分教会前会長夫人

福島悦子さん

訃報

松岡睦代姉

芦辺分教会長

十一月六日出直されました。

享年 八十七才

門脇誠教氏

大教会理事・島根分教会前会長

十一月十日出直されました。

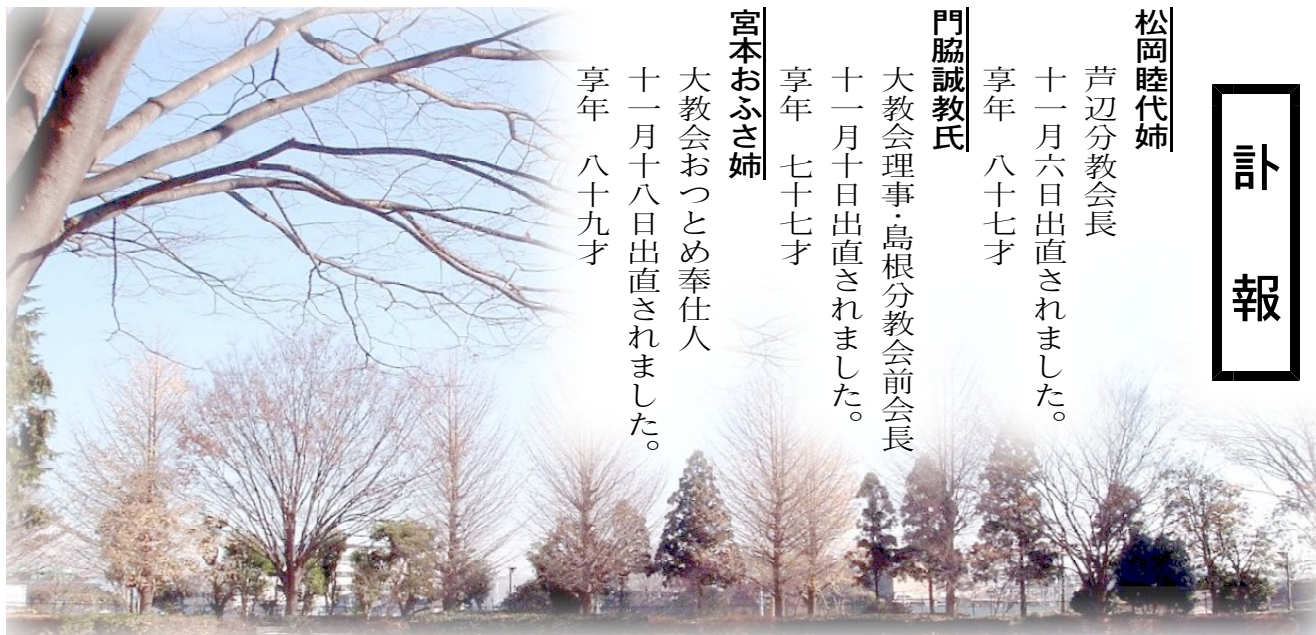
享年 七十七才

宮本おふさ姉

大教会おつとめ奉仕人

十一月十八日出直されました。

享年 八十九才



・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)

題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。

俳句等は1句からでも結構です。

寄稿先

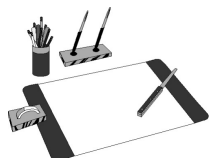
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



修養科での教養主任のある日の朝席である。「ある時、月様と日様と雷様が泊旅行に行くことになり、ある旅館で大変楽しく一夜を過ごし次の朝ぐっすり寝込んでしまった。雷様が目を覚ますと月様と日様は既に先に立たれ一人残された雷様は『月日の立つのは早いものだ』と呟いたそうな……閑話休題……私は2ヶ月目の助員として聞かせて頂いており、続いて「修養科生活も一ヶ月が過ぎ、後の2ヶ月のおちばでの生活で何かを掴もうとする人は希望を語り、怠けようとする人は不平や不満を語る様になるからそれぞれの時間の使い方、心の持ち方考え方で残りの生活を意義あるものにして下さい」と話された。私は何気なく日々過ごす時間の中で如何に無駄が多いことかと反省する。誰もが「あの時、こうしておけば良かった」と後になって後悔するが大げさに言うとは迫り来る人生から考えると時間を無駄にするという事は自らの命をも削っているように思える。残りの人生を少しでも親神様の御教えに近づいてゆく心を持つ様、陰の理づくりというのは本当に重要な事だと思ふ。

(む)